

自ら考え、自ら行動 避難所開設体験学習会



教育委員会は、有珠山噴火をはじめあらゆる災害に対応できる人材の育成を狙って、1977年の有珠山噴火の8月7日に合わせ、同日虻田小学校体育館で、町内の中学2年生を対象に避難所開設体験学習会を開きました。

今回の学習会は、初めての試みで、来年度以降も継続して実施していくことになっています。

防災教育の充実

今年2月、洞爺湖町教育改善推進委員会が、洞爺湖町の子どもたちの「生きる力」を育むとした提言書をまとめました。

その提言書の中で、特色ある教育部会では、「地域の特性から、有珠山を中核とした防災教育の推進及び地域の素材を生かした教育活動の推進」を打ち出し、現在の生徒が2000年噴火以降に生まれていることから、避難などの体験が重要であることを指摘しました。

教育委員会では、こういった提言を受け、将来避けることのできない有珠山噴火を見すえながら、あらゆる災害時に、避難する側だけでなく、避難住民の受け入れや、お世話をする側として積極的に行動できるように人材の育成を狙い同体験学習会

を開きました。

災害時の大変さを実感

体験学習会では、虻田、洞爺



馬場さんの講話を聞く中学生たち

洞爺湖温泉の中学校から2年生27人が参加し、避難所開設にむけて、実践的な学習が行われました。

最初に有珠火山マイスターの馬場俊治さんから「2000年避難所体験」についての講話を聞きました。馬場さんは「釜石中学校では、防災教育を受けていて、中学生が避難の主役となつて行動してください」と中学生を励ました。自

ら「避難所体験では「長万部では、600人が避難し、ぎゅうぎゆうづめで、プライバシーはありません」と当時の状況を話し、「避難所は、地域コミュニティを作る所で、いろんな人が快適に過ごすにはどうしたらよいか考えて学んでほしい」と訴えました。

段ボールを利用したテーブル作りでは、マニュアルの無い作業にとまどう場面もありましたが、グループでコミュニケーションを取って完成させました。また昼食では、職員役の生徒が、用意された4種類の違った弁当と飲み物を、考えながら各班に配分し、各班では、譲り合ったり、じゃんけんで分け合っていました。

役場職員を担当した洞爺中傳逸靖くんは「裏では、いろんな仕事があり、職員はたいへんだと思った。今日学んだことを生かして出来る限りのことをお手伝いしたい」と話しました。

参加した先生も「避難所開設のさわりだけでもふれられて、たいへん勉強になった」と感想を述べました。

特色ある教育部長の村瀬洞爺湖温泉中学校長は「自分で考えて行動するという学習ができると思うので、対応は簡単ではないが、基本的な入門としてはよかったです」と一定の評価をくだしました。

講話の後、具体的な作業に取りかかり、まず避難者役4班と役員役1班を編成。その後マット、毛布などの物資の搬入、搬出、避難所の設営、段ボー